



<本年度会長方針>

あらためてロータリーを考えよう No.1133

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 川畑博敬 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 田崎雅三 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

第1332回例会

新世代のための月間

平成23年9月15日(木)
於 名古屋東急ホテル

出席計算数 59名

53名中46名出席
出席率86・79%

前及回出席率96・08%

「ロータリーソング」

「我等の生業」

指揮者 岡村 隆徳
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

財団法人PHD協会 藤野 達也さん
総主事代行 藤野 達也さん
PHD研修生/米山奨学生 エリザ・フィトリさん

会員組織委員会

のゲスト

ケミカルシヤパン 代表取締役 高垣 満正さん
株キャリアアポジシ ョン代表取締役 西鶴 智香さん
成田山萬福院 副住職 竹島 照暉さん

ピクチャー

京都モーニングRC

別内 健司さん

「ニコボックス」

ゲストの皆様本日はありがとうございます。
川畑 博敬



ゲストの皆様楽しんで下さい。

田崎 雅三
本日のゲスト西鶴智香(にしじろ ちかこ)さんようこそお願ひします。

丹下 富博
PHD藤野さん、エリザさん、竹島さん、大須RCのよこぞ

渡辺 観永
松本さんに敬意を表して。

尾上 昇
ベトナム行ってきました。もちろん仕事です。

山口 正孝
9月19日は40回目の結婚記念日です。
吉田 明夫
来週結婚記念日です。近藤宏一郎
明日62才になります。出口 忍
誕生日です。浅野 彰
明日、誕生日です。草野 勝彦
やっと出て来られました。軽率です
ね！ 藤田 徹
昨夜は久々に飲みました。楽しかったです。浅野さん、岩崎さん
ありがとうございました。 林 順治

会長挨拶

川畑 博敬

さて今回は、世界的に経済状況の悪いなかで日本は多額な借金を抱え、私たち日本人は今後いつたいつしたら良いのかと言つてことでした。

1. 日本の将来と共に、自分の将来を諦めて観念する。

2. 日本の政治家や官僚に任せられないので、IMFに日本の整理整頓を任せます。

3. 日本の政治家や官僚に任せられないので、自ら積極的に日本を立て直す。

4. 全ての資産を清算して、又は一部の資産を持って海外に逃げる。

5. その他。

と、とりあえず幾つかの答えを用意したのですが、皆様はどれを選択しましたか？

まず、1.と答えた方はもうすでに観念しているので考える必要は全くありません。2.と答えた方は本物かどうかわかりませんが、ネバダリポートなるものを読んで研究してください。3.はちよつと難しいので後回しにして、今日は4.からお話しします。

全ての資産を清算して日本から逃げるか、もしくは、一部の資産を海外に移転する人が最近、非常に多くなりました。それは、日本が実質破綻して自分の資産の多くが取り上げられるのを防ぎたいと言つ理由ばかりではなく、相続税の増税、福島の放射能汚染問題、東海東南海地震の恐怖、ただ単純に物価が高くて食べていけないなどいろいろな理由によります。

日本が実質破綻して自分の資産を取り上げられるのを防ぐために海外に逃げようという人たちの思ひは、昭和21年2月17日金融緊急処置令が発せられ紙幣の流通停止、新紙幣の発行、預貯金の封鎖が実際行われ、そして昭和21年11

月12日財産税法が公布されて、25%から90%の税率で皇族や華族、そして資産家が財産の多くを失つた歴史が日本にあるからです。それに加えて、海外に逃げようと思つた人たちはそもそもお金持ちなので相続の増税問題も重要なので

相続人と被相続人の両方が海外移住をしてから実際に住所を移して5年経過した日本の非居住者の海外にある資産には、日本の相続税も贈与税も掛からないという租税特別措置法があり、どうせなら相続税や贈与税の無い国(オーストラリア、シンガポール、カナダなど)へ移住しようとする富裕層が多く居るのもうなずけます。日本の相続税や贈与税、そして過去にあった財産税なるものから逃れるキーポイントは、日本国籍を捨てて外国人になるか日本の非居住者になるしかありません。続きは次回にいたします。

卓話

「平和と健康を担う」

人づかりへの「支援を」

財団法人PHD協会

総主事代行 藤野達也

はじめに、これまでのPHD協会の活動に対しまして、ロータリークラブの皆様まからのご支援にお礼を申し上げます。

地球の上に住む人は、皆、平和



で健康に暮らしたいと思っ
ています。
しかし、
現実には
そこでは
ない状況にある人々がいます。そ
れぞれ各自の努力だけでは、その
厳しい状況の克服が難しい場合に、
国を越えての協力が必要となりま
す。それは政府が行うもの、国連
のような国際機関が行うもの、民
間が行うもの、個人で行うものと
様々です。

1962年から岩村博士のネパ
ールでの18年間の医療協力の経
験をもとに提唱された草の根によ
る国際協力PHDの活動は、この
6月で30年目を迎えました。外部
の専門家による病気がなくなってしま
ってから治すことへの協力と並行
して、村人にもできる日常的な取
りかみから、健康な生活を作って
いくことへの支援の必要を岩村博
士は考へました。

基本的な知識を普及させ、衛生
環境を整え、十分な量と質の栄養
を摂ることができれば、そこは医
者や病院に頼らなくてもすむ、村
の人々の能力と村にある資材を活
用することのきっかけを作るため
に日本の人々と交流をすること、
この発想がPHDの研修になりま
した。アジア・南太平洋の村の青
年たちを日本に招き、村の課題

問題を自らのとりかみで改善して
いくきっかけとなる経験を各地の
日本の皆さんがお手伝いをする。
この考えをロータリークラブの皆
さんが育ててくださいました。新
しいロータリーの友にも掲載があ
りますが、サンパウロで行われた
岩村博士の81年6月の第1回国
際ロータリー国際理解賞授与式が、
PHDのお披露目の場になりました。
全国の多くのロータリークラ
ブが支援をして下さり、PHD協
会の理事会は、国際ロータリー元
理事でもある今井鎮雄理事長のも
と2680地区のバスタガバナー

の皆さんを中心に構成されていま
す。85年からは米山奨学生として
研修生の支援をいただいています。
1987年の第1期生招へいから
10ヶ国約百人の研修生を迎えて
きました。毎年、4月に来日する
研修生は6週間の日本語研修の後、
各地での現場研修に入ります。

私達が村の青年たちを直接心援
をするのは日本での研修ですが、
研修生にとっての本番は帰国して
からになります。村に帰り、日本
での経験から得たことをまずは自
らが実践し、周囲に見てもらって
ころから始まります。村の人々の
興味、関心をひきだし、一緒に取
り組む仲間をひやしていくことが
次の段階です。いきなり大きなこ
とではなへ、小さな試みから。初
めからうまくいく、いつもうまく
いくとは限りません。試行錯誤を

繰り返す中から少しずつ村の改善
を進めていきます。日本からモノ
やお金の支援は最小限にとどめま
す。かわりに年に3回通信を送り、
年に1度、日本から人を派遣し、
指導、助言、激励を行います。こ
うした村の人々が主役の村の生活
改善が進められています。

1982年の第1期生バフト・
ビスタさんは、兵庫県の農家に滞
在し、有機農業を中心に研修を行
いました。帰国してまもなく、彼
は出身の村に小さなグループを作
り、サム・セフ・サムハ(社会活
動会)と名付けました。農業振興、
植林、水道整備、診療所開設など
村人の生活のための仕事を村人と
協働して行ってきました。そんな
彼からの要請があり、2009年
に彼の活動地域の山村から21才
の青年を第27期生として招へいし
ました。27年越しの同じ地域から
の招へいです。そして、去年、今
年と継続して、研修生を招いてい
ます。ビスタさんが築いてきたも
のを次の世代につけていくため
の段階です。

インドネシア、西スマトラ州の
山の村からは99年より招いてきま
した。一人一人は特別の肩書きを
もたない村の人。PHDの狙いを
理解し、モノやお金に頼るのでは
なく、自分たちの活動で村を良く
していくことに励んでいます。村
の中で、PHDの研修生が核とな
りいろいろなグループが生まれま

た。有機農業、母子保健、保育園、
道路・農業用水路整備などがす
められています。地元のお役所も
この活動には注目し、研修生がよ
その地域に招かれお話しをするこ
ともたびたび。また行政の助成金
を引き出すことも実現しています。
派手な活動ではなく、成果に結び
つくには時間がかかりますが、い
ったん根づけば、日本からの金銭・
物質的な支援はなくても、彼ら自
身の力で、村づくりがすすんでい
きます。

2011年はネパールから2人
インドネシアから1人の3人を迎
えています。今年はインドネシア
のエリザさんが名古屋での研修の
機会をいただきました。昨今の経
済情勢から、活動を支える収入が
減り、運営にたいへん苦労をして
います。研修生の一年の滞在の直
接経費として約3百万円を必要と
します。30周年を迎えた「世界に
平和と健康を担う人材を育成す
る」活動の
ために、こ
れからもこ
支援をお願
いしたく存
じます。



*本文は、原則、頂いた
原稿を転載しています。

広報委員会

酒井 修・吉田 明夫
松永 裕子・小野 定男

バナー交換 則内 健司さん
京都モーニングRC



敬老のお祝い



70歳を越える会員の方たちへ、クラブよりお祝いの品(松茸)が贈られました。伊藤与則さん、杉浦令淑さん、小野定男さん、浅野謙さん(写真右より)

9月29日(木)例会の案内

例会変更 同日

第一回職場例会

於 パナソニックリビング

シヨールーム名古屋

*11時30分

シヨールーム見学

12時30分 例会開始